

## 第4回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会 (柳川市教育の未来を考える会) 議事録

令和2年9月25日(金)に三橋庁舎3階第2・3・4会議室において、第4回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会(柳川市教育の未来を考える会)を開催しました。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりです。

### 1 開会及び閉会に関する事項

令和2年9月25日(金)

開会 午後3時00分

閉会 午後4時50分

### 2 出席委員の氏名

委員長	森 保之	委員
副委員長	横地 景子	委員
委員	高田千壽輝	委員
委員	橋本 憲之	委員
委員	今村 智子	委員
委員	中川 辰藏	委員
委員	乗富 昇	委員
委員	黒田 忠記	委員
委員	西田 親廣	委員
委員	菊次 晃一	委員
委員	成清 太郎	委員
委員	石川 未来	委員
委員	酒見 哲	委員
委員	五十嵐 勉	委員
委員	古賀 敬一	委員

### 3 欠席委員の氏名

委員	小森 喬介	委員
委員	大淵 教志	委員
委員	橋本 秀博	委員

### 4 事務局の出席者

教育部長	袖崎 朋洋
首席指導官	野田 真功
主任指導主事	野中 裕二

学校教育課長	古賀 洋
学校教育課長補佐	藤吉 康裕
学校教育課総務係長	荒巻 良二

5 傍聴者  
0人

6 議事の概要

事務局	<p>みなさん、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、只今より第4回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会（柳川市教育の未来を考える会）を始めさせていただきます。はじめに本日、小森委員、大淵委員、橋本秀博委員から欠席の連絡が入っておりますのでご報告いたします。それでは、会議につきましては、お配りしております式次第に従いまして進めさせていただきます。はじめに次第2 委員長あいさつでございます。ご挨拶をお願いいたします。</p>
委員長	<p>改めましてみなさんこんにちは。今日は第4回になります。折り返しを過ぎたところだと思います。私の感想ですが1学期に比べると、ずいぶんコロナ対応が進み、教育活動も前向きに進められてきていると思います。修学旅行のこととか運動会のこととか、私はコミュニティスクールを進めていますので、運営協議会で議論があつて、学校の力に地域や保護者のアイデアがコラボして、いいアイデアが生まれているということを感じているところでございます。それからもう1点、ご承知かと思いますが、中央教育審議会の「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」から「誰一人取り残すことのない令和の日本型学校教育の構築を目指して」という形で中間まとめ素案が出ています。私も斜め読みしかしていませんが、中身は新たな定数改善等々が書いてあります。前回の会議でも1学級をどうするかとか随分話題になりました。前回の会議で盛り上がった内容と非常に重なっていましたので紹介をしました。今日もよろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして早速ですが、次第3 議事に入らせていただきます。それでは議事の進行につきましては、委員長をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは次第にそつて早速始めたいと思います。前回のように活発なご意見を願います。前は学校の適正規模等々について検討をしていただきました。今回は適正配置について検討をしていこうということでしたので、まずは柳川市立小中学校の適正配置について事務局から説明をお願いします。資料16からになります。よろしくをお願いします。</p>

事務局	(説明)
委員長	<p>貴重な資料がたくさんあると思います。まず校区について、それから通学手段、最後に前回とつながっていますが学校選択制、特に小規模特認校の事例等が出ましたので、共通理解していきたいと思います。質問等ありましたらどうぞお願いします。併せてご意見も一緒に進めていきましょう。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>学校選択制についてですが、柳川市は一時、選択制にして何年かしていたんですが、それが途中でダメということで元に戻ったことがありました。その時の元に戻った要因は何ですか。</p>
事務局	<p>質問はおそらく、小学校から中学校にあがる際に、簡単に言うと指定されている中学校より近くの学校に行けるということであつたかと思います。正確な答えはご用意しておりませんが、その小学校の児童がみんなそちらの方に移ってしまったという状況の中で、中学校の生徒数のバランスが悪くなったことが一つの原因ではないかと思っておりますが、その時の元に戻した理由は把握しておりません。</p>
委員	<p>この制度ができた時、小学校からあがったら遠い中学校に通学しないといけないというのが解消されて、私達もいい制度になったなと思っていたけど、すぐ元に戻った形になって何でかなと、そこら辺がちょっと気になっていました。私の兄がS県のK市で中学校の教員をしております、同じマンションで中学校が違う所に行っているという事例があつて、その地域のコミュニティがそれでは成り立たないとちょっと悩んでいることがあつたみたいです。やっぱり地域のコミュニティと一緒に考えていかないと、現に今柳川市の小学校は公民館と運動会を合同でしているところがあります。M市に聞いたら合同でしていたけど、統廃合が進んだら合同の運動会はできないと公民館の人達からはっきり言われたそうです。柳川市も、もし統廃合した場合は、そういう可能性が出てくると思う。簡単にクラス替えができるような規模がいいと言われるが、それは理想であつて、もう少し地域のコミュニティとの関連性も考えてしていかなければいけないと思う。その辺も慎重に考えていく必要があると思っております。</p>
委員長	<p>関連したご意見などはありませんか。</p>
委員	<p>資料18の学校選択制について質問しますが、柳川市教育委員会では小中学校の通学区域等に関する規則があつて、それに基づいて小中学校を指定していると明記してありますが、市町村教育委員会の中には学校選択制として、学校指定云々の取り組み</p>

	<p>も見られますと。柳川市の小中学校の通学区域等に関する規則を第一にするんだったら、教育委員会の規定に添わないといけないが、一方、学校選択制というのがあるからそっちの方がいいですよというような言い方をこの文書で提案されておりますが、だいたいどっちの方を優先しようと提案されているのか、どっちを優先して取り上げて集約したいのか、結論として何を言いたいのか、その辺を教えてほしい。</p>
委員長	<p>確認ですが、これは何も柳川市をこうしますよという意見は一切おっしゃっておりません。国の動きとしてこんな事が考えられますという情報を提供していただいたところでは。</p>
委員	<p>もう具体論に入っている段階でしょ。違うんですか。</p>
委員長	<p>具体論ではありません。今日は、（複式解消のため）小規模特認校で進めている学校、ここの学校もコミュニティを大事にしながら小規模特認校という制度を使っていますが、そういういろいろな情報を提供してもらっているので、しっかり共有しながら、柳川市ではどうしていくかを決めていくという形です。</p>
委員	<p>今の自由通学ですが、私の地域でも、一番話題になった学校でもございます。最初は2、3人でしたが、最後は6年生全員がJ中に行ったということで、これではいけないだろうと同じこの場所で再三再四にわたって検討委員会がありました。最初は、Y地区はM中まで4キロ超して非常に遠距離で、M中は部活動を活発にやっていた関係で、部活動帰りなんか真っ暗になって、非常に保護者さんも心配があったと思います。そういうこともあって遠距離の生徒が近い所に行くようになって、かたよってしまふと中学校は部活動なんかできない状態ですので、今度は廃止しようということで、現在は全員M中に行っています。自由通学というのは難しい問題が出てきます。やっぱりいろんな関連の問題があるので、なかなか難しい点があると思います。</p>
委員	<p>確認をしたいのは、一般論として、どの小学校、あるいは中学校を選択するかという自由度、これがある程度広がっているというのが大きな流れだろうと思います。特に大都市部では、私学と公立との違い、あるいは同じ公立同士であったとしても、学力テスト等の成績とか、学校周辺の環境とか、様々な理由で自由な選択があった方がいいというのがおそらく大都市のニーズだと思っています。それに対して、柳川市ではそういった大都市の状況に近いようなことが起こっているのか、あるいは今後起こりうるのか、そういった点で学校指定のあり方を考える必要があるというのが一点です。それともう一つ、先程文科省の公式な話がありましたが、誰一人取り残さない、これはエスディージーズの考え方ですが、それを前提とすると、行きたいんだけどそこに行けない状況を抱えている子ども達、その受け皿をしっかりと作ってあげる、そ</p>

<p>委員長</p>	<p>ういう考え方から指定枠をあえて緩めるという考え方も出てこようかと思ひます。柳川市の場合には、今現状において、そういう状況にある、あるいは今後ありうるのかという判断、それが大きく学校指定を崩さないのか、若干緩めるのかの基準になるだろうと思ひます。</p> <p>今出ているのが自由選択、その自由選択の度合いのことで意見がいろいろ出ております。それからやっぱりどの子も行かせたいという視点です。実はこの2つの事例は、私に関わった学校です。M小もK小もコミュニティスクールの学校です。だから一番困ったのがK小は、先程おっしゃったようにコミュニティを大事にしないとイケないとなりました。ただそこに住んでいない子ども達が来ます。そこでいろいろ悩まれました。私がアドバイスしたのは、コミュニティスクールには二つありまして、自分たちが住んでいるコミュニティ、ローカルコミュニティと普通言ひますが、もう一つは、テーマコミュニティという発想です。例えば、こんな学校の特色というテーマで集まったコミュニティ、その発想を打ち出したんです。そしたらK小もそれでいこうということになりました。実はあそこは隣のT小が1学年4クラス5クラスあるぐらいのマンモス校なんです。ですから今おっしゃったように行けない子どもがいます。要するに大人数の学校に入れないう子どもがいますので、そういう子ども達を救おうということで、テーマがあるそういう特色のある学校で生活する。コミュニティを大事にしながら一人一人を生かすという、どっちみちどちらもT中に行きますから。だからここは、基本自由選択制は反対なんです。基本的に学校区がきちんとあって4番目の特認校の考え方です。あとその前の通学区域とか意見が出ていませんが、何かありませんか。なければ(2)に移りたいと思ひますがどうですか。</p>
<p>委員</p>	<p>資料17のスクールバスについてですが、S小ではスクールバスが4台ありますが、今柳川市のバスは何台ありますか。もし新しくなった場合どうなりますか。また、S小では、その登校下校時の運転手は教師がやられているのか、市の職員がやられているのか、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>M市の場合には委託運行をしているようでございますが、柳川市の場合どうなっていくのかというご質問については、まだ方向の姿が見えませんが、これからの検討課題になると思ひます。何台でどうやるのかという話につきましても、当然学校がどうなるのかということがないと検討のしようがないこととございますので、ここではお答えができませんところとございます。ここでこの資料を出した意味は、S小のような学校区の広さであるような地形の場合、一番早い子は朝7時15分ぐらいからバスに乗って学校に行くという、このような運行の状況をご理解いただきたいということとの資料でございます。柳川市の現状では行政用に1台持っておりますが、スクールバスにまわせるようなバスは持っておりませんので、もし今後このような統廃合</p>

	<p>等々でスクールバスが必要になった場合は、そこで一番経済的合理的なバスの運行方法なりを検討したいと考えております。</p>
委員	<p>M市の場合は運転手だけですか、それとも添乗員まで付いていますか。</p>
事務局	<p>運転手とバスの委託で1千万円程度の費用がかかっていると聞いております。</p>
委員	<p>それなら運転手以外に添乗員が乗車しているかということは分からないということですね。</p>
事務局	<p>添乗員がいるという話は聞いておりません。</p>
委員	<p>スクールバスを導入することになるかどうかは置いて、一般論ですが、今過疎地域では児童だけを乗せるスクールバスという選択よりも普通の市民も乗れるコミュニティバスとか、デマンドタクシーとか、つまり地方公共交通の充実の中で、子ども達の通学方法を確保するという視点も必要になっています。柳川市の場合にその地方公共交通のあり方とか、将来計画とか、そういったことを十分見据えた上で、仮に統合した場合にスクールバスありきではたぶんないだろう。多様な移動手段を組み合わせる形の交通体系、それをセットで考えないといけないだろうと思います。</p>
委員	<p>別の事柄ですが、小規模特認校の例を出していただいているK小ともう一つの学校を読みますと、非常に特色のある教育活動をしているという、こういうふうに海辺であっていろんな体験ができる学校ということで、他からも児童がやってきているという感じですが、一般的な小規模校で特色が無くて、例えばこうやって残すというような例はありますか。</p>
委員長	<p>みなさんご存じですか。どうぞ。</p>
副委員長	<p>私も面白いなと思ったので調べたりしたんですが、何かそういう自然がとても豊かだとか、将来的に何か特化した何かがあるというのが見えない場合、何かないのかなと思ったら、N県が結構いろんな面白い学校を展開しているみたいで、I小というのがありまして、そこが面白いなと思ったのは、山羊の体重を計ることで算数を、成長の喜びを歌にすることで音楽を、そして協力者に手紙を書くことで国語をというように教科を超えた学校を、そういうのをやって子どものやりたいことを選ばせて、じゃあやってみようで展開して、子ども達が主体的に学ばすし、なかなかそれは面白いなと思いました。それで今後の教育として、さっきからとても引っ掛かっているんですが、適応できない子どもというのがとても引っ掛かっている、適応できない子ども</p>

<p>委員長</p>	<p>をつくらないではなくて、そもそも子どもにこれが教育だよというのを適応させるほうがもう限界にきているのではないかと思います。それでそれだったら子どものやりたいことを遊び尽くすとか、学び込むとか、何かそういうことをサポートできる学校に、適正規模とかそういうことも大事ですが、どうもそれ以前に学校の教育を今後変えていかないと何か限界がきているのではないかなという気はいたします。</p> <p>先ほど紹介された学校は、何もはじめから特別な特色があったわけではありません。コミュニティスクールの学校でしたので、学校・家庭・地域が立ち上がって特色をつくっていったと言った方が正しいかと思います。地域にある教育資源をどう使っていくのかを考えてみんなで子どもたちの教育に関わっていったと思います。それが結果として、その地域の特色になったといった言うことです。私は、関わってよかったと思うのは、それが引き金になって、H市もそういう学校を作っていくぞという意識が高まったということです。</p> <p>他に（１）についてございますか。一つだけ教えてほしいことがあるんですが、柳川市は前回の平成２４年の時に小学校は２km以内、中学校は４km以内が望ましいと書いてありました。国の場合は小学校が４km以内で、中学校が６km以内ということで基準が示されていることは前回に情報提供したと思いますが、これは何か理由があるんですか。例えば自転車通学はどんな状況ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>前回の答申は現状に合わせたのではないかと思っています。というのが、現状で小学校が見ての通りほぼ２km圏内に入ります。中学校もだいたい４km前後で収まるような形になります。それで自転車通学につきましては、K中は小学校と校区が一緒ということもありまして全員徒歩通学です。私はJ中だったんですが１．４kmが基準で、１．４km以上が自転車通学。B中が確か十数年前に、部活動が終わって帰ると暗いことから距離関係なく全員自転車通学を認めています。田んぼの中の一本道とかを帰らなければいけない生徒がけっこういますので、徒歩では非常に心許ないということで、全員自転車通学を認めるという方針をとっております。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは（１）については、よろしいですか。</p>
<p>委員</p>	<p>お尋ねをしたいんですが、市内の小学校に通っている子ども達が私立の中学受験とかをされてらっしゃる方も増えてきているとお伺いしております。また、中高一貫の学校にやられるとか、校区の中だけではなくて違う所に、それこそ先程おっしゃられた特色ある学校で子どもの能力を伸ばしたいとかいうお考えの保護者もいらっしゃるって伺っておりますが、今通わせていらっしゃるPTAの方で、小学校からこのまま中学校に入れられるお考えとか、特色ある所に行きたいとか、そういうお声とかいうのを伺ってらっしゃるのではないかと思います。その辺を聞かせてもらえたらと</p>

	<p>思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ではまずは、P T Aの方からどなたかお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>自分はT地区で小学校に子どもが在籍しております。市P連の会長をしています が、先程の質問で私立の中学校とかの話がありますが、その事細かな情報はお 母さん達同士で、あの子は私立に行ったよとかいう話はしているみたいで す。前は全然なかったんですが、今はY市の方に行くとかいう話は聞いてい ます。どこの小学校は何人行ったよとか、そういった結果とかは取って いません。そこまでの情報はまわってこない状況です。</p>
<p>委員長</p>	<p>小学校から中学校の入試とか、そういう部分での傾向とかあったら、お よその傾向でいいですがどなたか分かりますか。小学校の校長先生、今日 は欠席か。中学校の方で分かりませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>正確には分からないですが、小学校にいる6年生の人数から中学校の 人数を引くと、だいたい1割かなと、直感的に言うとそれぐらいの数字 だと思います。年によって違います。</p>
<p>委員長</p>	<p>傾向としてはだいたい1割ぐらいだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>I委員のお話の中でちょっと気になったことがあります。さっきT委員 とも話をしていたんですが、実は自由選択制をM中学校とJ中学校でや られた時に、これはあんまり大きな声で言うのはどうかと思いますが、 私の母校でもありますM中学校はちょっと荒れている時期で人気がな かったんです。それで自由選択制になった時に親がM中学校にはやり たくない。それでJ中学校に人が流れたという経緯がございまして、 今実際別の学校だったり、Y市の方に行かれる方も、実はそういう方 もいらっしゃるみたいで す。やはり学校のレベルと言ったらおかしいですが、自分が行かな ければならない小学校、中学校がどんな特色を持っていて、どんな ふうにされているのか、内情はどうかというので、親御さんはけっ こうあるのかなというの肌で感じるところが ございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは(2)にいきます。これまで配置それから規模等々を話して いただきました。そういうことを踏まえながら、これからの柳川市が めざす学校づくりが最後の仕上げでございますから、今日は前だし ということでオープンに意見をどんどん出していただきたいと思 います。それでは、説明の方をお願いします。なお、これで決まり と言うより、本日はしっかりご意見を出していただき、再提案を させていただくよう</p>



事務局	<p>に考えていますので、遠慮なくご意見を出してください。よろしく申し上げます。</p> <p>(説明)</p>
委員	<p>施設の建設年度と老朽化のところで、十分とは言いませんが今すぐに施設の整備をする必要性はないのではないかという教育委員会の説明でございましたが、以前中学校の先生にお尋ねをしたら、今の中学校の生徒、とりわけ女子生徒がトイレに行かないそうです。なぜなら汚いということ、それと衛生面が良くないということで行かない子どもがいて、非常に心配しているという中学校の先生の話がありました。また、生理不順になって、問題点があるのではないかというようなお話をされてきました。M中しか存じませんが体育館の下とかにもございますが、整備はしていただいていると思いますが、トイレと言えるかというぐらい汚いところです。今の子ども達は洋式便所が慣れている時代に、そういう所も見直しを計画的にしていればありがたい。ご意見でございますので、それが一つ。二つ目としましては、私が公民館の連絡協議会からこちらの柳川市教育の未来を考える会に出させていただきますので、先程来出ていますようにコミュニティ関係のことは非常に私達関係がございます。先程お話がありましたように運動会とかも今年はたまたまできませんでした。公民館と学校と一体に5月に盛大に実施しておりますが、区域の見直しについては、校区を基準としながらしていくというお話ではございますが、はたしてそれだけで校区をさわらずにできるのかというのは非常に不安を覚えておりますので、今後検討される時に私もご意見を述べさせていただきますので、十分にご協議をいただければと思っています。</p>
委員長	<p>続けて、出してください。</p>
委員	<p>こういう場所で言っているのか分かりませんが、学校の先生達とこの間、学校の関係で話し合いがあってちょっと話して、やっぱり子ども達が多様化して、1人の先生でクラスを運営するのは難しいと言われて、それを教育委員会に言うと、すぐ支援員の補充をすると。それで本当は先生を補充してほしいと。支援員さんと先生というのは仕事の内容は全然違います。支援員さんは授業をすることはできない。移動の介助とかそういうことしかできないので、やっぱり教員免許を持った人を教師として採用してほしいというのが実際なんで、予算の面で講師と支援員さんといったら予算も全然違うので厳しいと思いますが、現状でそういう意見があるということを教育委員会は心していただきたいと思います。こういう場で言うべきではなかったかもしれませんがお願いしときます。</p>
委員長	<p>他ありませんか。</p>

委員	<p>二点ありますが、各地区にそれぞれの行政区があると思いますが、私達は行政区区長の立場で、みなさんもそれぞれ団体の長と思いますが、今日のこういう会合、4回あっていますが、団体の代表として出てきて意見を言う以上は、話の内容を持ち帰って、団体の意見をある程度聞く必要がなかろうかとも思う。今は私の私見で言っている。今度帰って役員会なんかで話を出しますと、一地区でございますが、団体でのそれぞれの意見が出てきます。そうすると、ここに出てきて私が発言する場合にその意見を頭に入れながら、発表する、討議する場合がありますが、この話は秘密にするべき問題ですか。公開にしていけない問題ですか。</p>
委員長	<p>基本的にはオープンでやっていこうということは確認したと思います。今おっしゃるようにみなさんは代弁者でもあるわけですから、状況によっては持ち帰って区長という立場で、みなさんの声を汲み上げて次回に出てきてもらうというような形で進めようと思います。何も隠すようなものもないと思います。</p>
委員	<p>公開でいいですね。</p>
委員長	<p>基本的には公開しています。名前は入れていませんが議事録も公開しています。</p>
委員	<p>それともう一つは、2クラスにするとだいたい200人規模の学校になりますが、基本的には2クラス200人前後を、M市の場合もだいたい200人ぐらいになるような規模でございますから、それで2クラスにしていく場合に200人規模以上の統合、それと現在のありのままの姿でいく、選択がですね。そうした場合にやっぱり2クラス、3クラスを基本に、これが基になってくると統廃合もある程度考えていかないといけないし、その点については、市はどんなふうに考えてありますか。</p>
事務局	<p>市の考え方をということでございますが、基本的に今回みなさん方にお示ししているのは、現状がこんな具合で、前回人口推計等でもお話しした通り、人口推計からいきますと10年後ぐらいには複式学級が発生する学校がございます。それで複式学級が発生する学校で、今の状態でいいんでしょうかというのが今回の委員会の大きな目的でございます。小学校においては1クラス10人弱の学校が今でもございますが、そういったクラスの単学級の学校を続けていっていいんでしょうかということで、情報提供させていただいてみなさま方に考えていただいております。それで、そういう学校ではだめだ、やっぱり2クラス、3クラスの学年でないとダメだということになりますと、どうしても人口が増えませんが学校をまとめるしかないという結論になります。前回までの会議の中で、やはりある程度の規模の学校がいいということはみなさん共通認識していただいたと思うんですが、ではそれを実現するためには</p>

	<p>学校をまとめなければいけません。そうすると通学の問題、それから学校区の問題、どうなるんだというのが今日のテーマでございます。そこでやっぱりダメだよというようなことが出てきたら、それを無視して子どもが学校をまとめていくということとはなかなかできないと考えております。ただ、やはり教育効果の問題からいくと子どももある程度の規模の学校がいい、10人のクラスで6学年の学校よりは、せめて2クラス、よければ3クラス、中学校がやはり5クラス、6クラスあって、学年ごとに主要教科の先生がいる。2学級だと国語の先生がその学校に1人しかいないというような中でやっていかなければいけない。中学校だったら部活動、そういった問題もございます。なので、今回みなさん方にお示ししているのは、実態はこうです。将来はこうなっていくという中でこれからどうでしょうか。みなさん方はどうでしょうか。私達はやはりある程度の規模の学校がいいと思っています。本音を言わせていただければ、やはり学校をいくつかまとめていって、教育効果が上がる学校、そしてお金をつぎ込んで、すべての子ども達にある程度充実した教育内容で勉強させてやりたいと、そういった思いも持っておりますので、みなさん方、いろいろな立場はあろうかと思いますが、いったん持ち帰って、それを絶対曲げられないって話だとかえってまとまりませんので、ある程度私見でという話はあるかと思いますが、それぞれの立場の中で議論を戦わせていただいて、これからの柳川市内の小学校、中学校どうあるべきか、そして、答申をいただきましたら、私達はそれから具体的な案を作りにかかるといってございまして、議論をよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>今日の進め方の確認ですが、2ページの真ん中の方に空白があります。案で小学校は学年2～3クラスを、中学校は学年3～5クラスを確保したいと例が示してあります。ではみなさんどうですかということで、今日は、私はこう思いますというようなことをどんどん出してください。どうぞ活発な意見をよろしく願います。</p>
委員	<p>そうするとやっぱりこれは私達も地域に帰って地域の意見をある程度聞かないと、2クラス、3クラスある小学校はいいですよ。現実問題100名そこそこの小学校は合併を前提に話をしないといけない。そうするとおのずから100人前後の小学校は分かってきます。その地域の人達は真剣にこの問題は取り組まないと、これはもう近々の問題なんです。だから意見をある程度集約しながらここに持ち込まないといけない。私の所も小規模の小学校になっていますが、おそらく6校か7校、10校近くなると思います。持ち帰ってどうするか。それと次はいつするか分かりませんが、それまでにある程度集約してこないといけない問題もあります。意見を集約してきかないと私も説得も納得もできない。ここの意見をすぐ持ち帰ってもなかなか納得してもらえない。ある程度の情報を公開して、PTAや学校とも話ながらいかないとこれはいけない。</p>

委員長	<p>次回とその次の回と少し流れを説明されたらどうですか。そしたら納得されると思いますが。</p>
事務局	<p>補足として流れを説明させていただきます。この会議でございますが、次回に答申案、叩き台を出しますと申し上げましたが、具体的にどことどことどこをというような話はお出ししません。それは分かっていると思います。もちろん先程区長さんがおっしゃっているのは分かります。ある程度の規模の大きな学校を作ることであれば、小規模校は統廃合の対象になるのではないかとございしますが、極論から言いますと大きな小学校も含めて統廃合の対象であるというふうには思っております。仮にF小学校であっても、それは統廃合の対象外かという、そうではないというふうには私は認識しております。というのがF小学校につきましては、今でこそいっぱいありますが、推計しますと結構減っていくんです。それと校区の配置の問題もございします。そういったものを含めて、ゼロベースで考えていかなければいけない問題かなと思うので、どこがというような話にはならない。そして、現状でも仮に統廃合を選んだ場合でも残る学校、残らない学校という議論にはならないのではないかなと私は思っています。というのが、ある程度3クラスの小学校を作ろうと思ったら既存の学校では入らないんです。入りそうな学校も中にはありますが、そんなにうまくは行かないだろうと考えております。ですので、本当にゼロベースでこの課題は考えていかなければいけない。そして、答申は次回お示しをいたしますが、柳川市の学校のあるべき姿はどうかというのを中心に書かせていただきたいなと。そしてそれをみなさんでどんどん叩いていただきたいと思います。そして、その答申を受けて、それから柳川市が具体的な姿をどうするのかというのを考えていく形になりますので、どこが統廃合になるか分からない状態で地元を持ち帰られても、だぶん、統廃合はいやだという議論か、うちもやってくださいという二つの意見だけで、どっちが強いかだけだと思うんです。まずは、今回は将来、柳川市の学校はどうあるべきかというのをここで議論を戦わせていただいて、それを受けまして、こちらで素案を作らせていただきますので、次回これはいこうと言っていただけなのか、こんなものではだめだという話になるのかは、次回の会議で議論をしていただきたいなと考えております。</p>
委員長	<p>それではいいですか。今日の最後に出ている部分ですが、流れとしてはずっとこれまでも議論してきましたが、タイトルにあるように柳川市教育の未来を考える会ですから、まず私が進言したのが、これから10年先ぐらいを見越して柳川市のめざしたい学校像というのを1ページの下段に書いてあります。そういう学校をめざすために2ページ目にそれを実現するための基本的な考え方が(1)から(5)を示されています。そしておそらくもう少しいきますと、学校規模とか学校配置とかいうのが具体的にあがる。それを各地域に下ろして議論してください、声を聞いてきてくださいと</p>

委員	<p>いう意味です。統廃合になるとか、ありきではないということは毎回議論していますから、この会議では統廃合どうするかという議論はしません。未来の柳川市の教育をどう描くかです。</p> <p>確認したいんですが、おそらくN委員さんが心配されておられるのは、N委員さんは地区の代表として来られていて、現段階では地区の代表的な意見を背負ってきているわけではないわけです。今回この委員会でまとめあげる答申案、委員長が言われるように地元に返すんですか。地元に戻してもう一度議論してくださいという話になるんですか。答申案ですからないでしょ。これは庁内でどういうふう意思決定していくんですか。教育委員会がまず原案を作って議会にかけるんですか。統廃合はどのようにして最終的に意思決定がなされるのですか。その道筋を示した上で答申案の位置づけ、重み、それを委員で共有した方がいいと思うんです。委員長言われるように答申案は地元に戻すようなものではないでしょ。</p>
委員長	<p>どうですか。</p>
事務局	<p>まさしくおっしゃる通りでございます。答申につきましては、この委員会の総意として、教育長が諮問しておりますので教育長に答申をしていただきます。その答申を基に具体的な行動に移す場合には、柳川市で行動計画といいますか、具体的な計画は改めて作る形になります。したがって、基本的には諮問して委員のみなさん方に諮っておりますので、みなさん方の総意で答申を作っていただくのが大原則でございます。ただ、それぞれ背負ってらっしゃるものがあるかと思っておりますので、この看板を背負って来ているので私は任せきらんとおっしゃるのであれば、母体のご意見を聞かれるのを私どもが個人で判断してくださいというふうには私が言えるものではないと思っておりますので、必要があればその団体等で、それはそれぞれの委員さん方のご判断だと思います。ただ、あくまでこの委員会の中で委員さん方のご判断で議論をしていただいて、答申をまとめていただきたいということでございます。</p>
委員	<p>答申に続いて作られる行動計画、その段階になるとおのずとクラス数とか、適正配置、規模の答申に則って、ある程度対象となる学校は行動計画の中に盛り込まれるという理解でいいですか。</p>
事務局	<p>こちらは全体計画として作るのか、個別にやるのかということまで、まだ決めておりません。答申を受けて具体的な計画は市で作成をし、それぞれ地元説明会をするなどして実現に移していくというような流れになります。</p>
委員	<p>ちょっと前に聞いたかったことですが、2ページの(1)の①のあくまでも案です</p>

	<p>よということで、今説明されたと思うんですが、これが教育委員会としてはたぶん一番いい案というか、内容ですよということを暗に言われているんですか。こういう内容を検討していく中で、私達これを基に、これよりもどうなのかっていうところで議論していかなくてはいけないと思うんですが、教育委員会としてはこれが一番いい数字、例えば小学校だったら学年2～3、中学校だったら3～5というのが、今のところ考えられる中で一番いいのはこれという認識でいいですか。それを暗に言われているのかなとちょっと勘ぐったんですが。</p>
事務局	<p>前回の議論からすると、教職員の数等申し上げまして、2クラス、3クラスがいいという議論の流れがございましたので、それを踏まえた上で一番分かりやすい書き方かなと思って書いているところがございます。もちろん、そうじゃないよという否定がありましたらどんどん意見を言っていただいかまわないと思います。</p>
委員	<p>こういったふうに出されたものに対して、これがいいのか悪いのか、プラスした方がいいのかマイナスした方がいいのかという議論になっていくと思うんですが、やっぱり私達も専門家ではないので、これがある程度基準になるのかなと思ったので聞いた次第ですが、今までの意見を集約したのがだいたいこうでしょうということで示してあるということですね。</p>
委員	<p>これについては前回の会議で、どれくらいが学校としてはいいかということで学校に意見を求められました。それでやっぱりクラス替えがある程度できる学級が活性化する。中学校も2クラス3クラスはあるほうがいいということだったと思う。事務局は教員側としてのそういう話の流れから、クラスは2クラス3クラスあった方がいいのではないかと出しているのではないかと思います。</p>
委員	<p>この案ではクラス数を提案しているわけですが、当然規模で言うと1クラスあたりの児童数、それとセットとの議論になろうかと思います。前回私欠席でしたが、前回の議事録を見ると30人以下とか数字がいろいろ出ていましたが、提案するのであれば1クラスあたりのあるべき人数、それを示すべきだろうと思います。それはなかなか難しいという状況は分かりますが、1クラスあたり30人以下というのは、今まで野党しか言わなかったんですが、最近自民党も言い出しています。国全体として小学校30人規模の目標というか、それを掲げているような状況の中で、国とかいろいろ関係ありますが、1クラスの規模が何人程度で、小学校であれば複数学級、中学校であれば、その複数というのは少なくとも3以上とか、そういう出し方が必要なのではないかと思います。やはり1クラス何人を想定してというのを付けないと、ちょっと具体的な提案にはならないだろうと思います。</p>

委員	<p>私も10年前の答申の内容は把握していますが、この案は10年前の案とたいして変わらないんです。その時もこういう小学校は3クラスぐらいの適正規模にするとか、10年前に答申があります。それと同じ内容だったら何も変わらないと私は思うんです。今度の会議は10年前とはどう変わっていくかというのが私は課題だと思っておりますが、その辺も検討していかないといけないと思っているし、10年前と一緒にしたら何もならないと思います。</p>
委員	<p>今T委員が言われるのは、私はまったくその通りと思います。クラス編成についても10年後は人間がどれくらい減ってどうのこうのと、クラスはこれくらいが想定されるだろうというのは、10年前に提案されているそのままが、ちょっと文言が変わって今議論されているだけであって、まったく何ら変わらない。この資料を送ってもらった時に、第1回目の平成24年5月21日付け小規模化に対する対応方針を全部読んだらまったく内容は一緒。文言がただ変わっている。変わっているのは、国際化、情報化時代に即応するためにどういうふうにした方がいい云々というところが付け加えられているだけ、だから10年前の反省の上にならなくて今議論されているのかどうかというのをもう1回振り返ってやった方がいいのではないかなと思っております。何か事務局で異論があれば言ってください。10年前と内容はまったく一緒。全然変わっていない。</p>
事務局	<p>約10年前だと思いますが、前回のこの適正規模適正配置化の委員会は、統廃合の具体的な案を作って諮問をさせていただいたみたいです。結果、時期尚早という結論を受け、その中で小規模化に対する対応方針が示されております。小規模化に対する対応方針は確かに今議論していただいているのとよく似ているという状況にあると思います。我々は前回の委員会の中で時期尚早と言われましたので、さらには10年を目処に再度協議するというところでございましたので、10年はまだぎりぎりたっておりませんが、このタイミングでこれからどうしましょうかというのを諮問させていただいているというところでございます。確かに現在お示ししているのはよく似ているというご指摘はあるかと思いますが、再度議論するというところでございますので諮問させていただいているところでございます。よろしくお願いいたします。</p>
副委員長	<p>10年前の答申が出た時もいろいろみなさん熟慮されて示されたと思いますが、あの時は地区を分断するような形の危機感とか、そういうのがみなさんの中にあったように記憶しております。それで、今名前を変えて柳川市教育の未来を考える会、これで改めて考えて、どういう統廃合がいいのかとか、するのかもしれないのかという話に私達は参加していると、私は認識しているのですが、いつも形で学年2クラス、3クラスが理想だとかいうのは、前回と変わらないんですよ。だけど子どもの姿として、現状がどんどん深刻化していると思います。今の子ども達の教育現場の現状を抜きにし</p>

	<p>て、形だけ何クラスがいいとか、この地区は2 kmとか4 kmとかいう以前に、今どういう問題があつて、そしてこういうことをもっと考えて解決していかないといけないという議論もあつたほうがいいんじゃないかなと思います。そして、例えばクラスは30人以下がいいとか私個人も思いますし、できれば先生は2人がいいとか、というのがやっぱり発達障害とかグレーゾーンの方達が増えています。先生の困り感、親の困り感、でもそれ以上に子どもが困っているんです。子どもがどう居場所を見つけたらいいとか、それが親の不安でもあり、そして学校の問題でもあります。だからそういうことをきちんと、そしてあと、今コロナ禍で人数が少ない方がよかつたかなと思つたり、そういう多様な社会情勢、多様な子ども達に向き合うためには、どうしたらいいかということも含めてこの議論を進めなければ、また形だけの統廃合になってしまうというふうに懸念をしています。だから今回は柳川市教育の未来を考える会というふうに銘打っていただいたので、そこの所を深めていきたいと強く思います。ぜひ先生の数を増やしていただき、先程おっしゃったみたいに支援員の方だけ増やしても、その支援員の方も困っているという話をよく聞きます。いったい私はどういう仕事をしたらいいのか、先生方もそうです。そういう教育というか、支援という意味での勉強をしてきていないというようなことで、現場が困っている現状をどうにかしていく必要があるのではないかなと思います。</p> <p>委員</p> <p>保育園で働かせていただいています、やっぱり気になる子たち、グレーゾーンの子どもたちが増えてきています。クラスの中で見ると1人とかいう問題ではないんです。何人もいるとなつた時にクラスがまとまらないということが現在も起きています。これはうちの園だけの問題ではなくて、どの園でもたぶんあることだと思っているので、学校でも気になる子たちというのは確かにいるんです。一緒に生活していく中でそういうのを踏まえながらも、どうやってうまく生活していくか、勉強していくかというところはものすごく課題のところだと思うので、今後は教育の中で重点的に考えていかなければいけないのではないかなと思っています。なので、そういったところも意見としてあげてほしいなと思っています。</p> <p>委員長</p> <p>今のようなところはキーワードにもなりますよね。</p> <p>委員</p> <p>1ページ目に現状の中に見える課題・問題点というのがあるんですが、学校の適正規模、適正配置ができれば、切磋琢磨できる環境ができる、人間関係が固定化せず子ども達がのびのびと生活ができる、それから教員数が確保できる、十分な部活動が保障できる、予算確保、十分な教育条件整備ができる、ICT環境うんぬんの条件整備ができる可能性があるのが、この適正規模、適正配置ということにつながるのではないかと自分は理解しているんですが、それでいいでしょうかという確認です。</p>
--	---



委員長	<p>そういう確認でいいかということですが事務局どうですか。</p>
事務局	<p>課題・問題点を逆説的にとらえておりますが、そのような方向に持っていきやすいというふうにお答えをさせていただきたいと思います。それで、確実に保障できるのかという形になりますと、クラスの数が増えたら切磋琢磨できるのか、結局その時のクラスの雰囲気等々いろんな条件があると思います。ただ、少なくとも4、5人のクラスよりは切磋琢磨できる環境につながる。そういうふうと考えていただいているのではないかと、そういうふうと考えますと、よりよい方向に持っていけるのではないだろうかとは考えています。</p>
委員	<p>学校の統廃合をめぐる様々な意見の対立になるのは、当然のことながら統廃合の対象となる小規模校を抱えている地域だと思うんです。その問題があるから、なかなか今まで進めてこられなかった。前回の答申、たぶんそこが一番のネックだったろうと思います。今回の仕切り直しのこの委員会で改めて確認したいのは、私昨年度、協働の地域づくりの委員会で答申を出しましたが、学校があるから地域のコミュニティが成り立つのだということは、その側面あるんですが、やはり発想はちょっと考えなければいけなくて、こういう少子高齢化の中で子ども達のあるべき将来を考えた場合に、最優先すべきなのは適正規模、適正配置の考え方だと。その上で地域のコミュニティをどうやって維持、発展させていくのか、それは地域側でやはり考えないといけないことだろうと思います。まず優先すべきは子どもの将来をどうすべきかという議論、それによって伴う地域の衰退とか、コミュニティの崩壊らしきもの、こういったものをどのように防いでいくのか、あるいはそういった他の小学校区に通うことになる子ども達を今までと同等以上地域で支えるためにはどうするのか、という別な議論をぜひ地域のコミュニティのレベルで考えていってほしい。そういったことの共通理解が得られれば、大きな異論がなく場合によっては進む可能性はあるだろうと思います。コミュニティスクールとか、地域との連携をうたいすぎてしまうが故に、やはり地域側としては、それを維持するパワーがなくなってしまう危機感が大きすぎる。ここは、地域で運営するコミュニティスクール大事だと思うんですが、一方で地域側は、この問題に関しては一步離れてというか、一回ちょっと立ち止まって考えざるを得ないのかなそんなふうに思います。</p>
委員長	<p>時間がきておりますが、出されたご意見を反映しながら、次回答申に近づくような形で一応提案して、そして見通しとしては、次回の第5回と第6回、この辺りで仕上げたいというふうな見通しでございますので、よろしくお願ひします。それから、先程ご意見がありました地域の声を反映、そこは臨機応変にされてもいいんじゃないかと私は思っていますので、ただ固有名詞とかそういうのは避けていただければありがたいなと思います。次回、最後に出されましためざす学校像、それからめざす子ども</p>

	<p>も像に向かって、どんな環境づくりをしていくかというところの本筋になってきますので、どうぞ活発なご意見を。また、次回まで少し期間がありますから、それまでに少しそれぞれのみなさんのお考えを固めて持ってきていただければありがたいと思います。ここで(2)を締めたいと思います。(3)のその他に入りたいと思いますが、みなさんから何かその他でありますか。なければ事務局何かありますか。次回の開催日を決めときましょうか。</p>
事務局	<p>次回の開催日を11月27日(金)の時間帯は今回と同じ午後3時からで提案したいと思います。</p>
委員長	<p>今回は11月27日(金)の15時、午後3時からという提案です。よろしいでしょうか。(了承)</p> <p>それではご準備の方をお願いします。事務局にお渡しします。</p>
事務局	<p>みなさん長時間にわたり熱心なご議論をありがとうございました。これまでの意見を参考に次回は事務局で案の叩き台をお示ししたいと思いますので、より具体的なお議論になると思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。それではこれをもちまして、第4回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会(柳川市教育の未来を考える会)を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>